

## 依頼講演

# 『イノベーション創出へ向けた神戸医療産業都市の取り組み』

神戸医療産業都市推進機構 クラスター推進センター  
創薬バイオグループ・スタートアップグループ  
グループリーダー

小池 晴彦

### 1. 神戸医療産業都市の概要

神戸医療産業都市は1995年1月に発生した阪神・淡路大震災からの復興プロジェクトとして、ポートアイランドを中心に企業や研究機関等の誘致・集積を促進し、産学官医の連携による医療関連クラスターの形成と次世代の成長産業である健康・医療関連産業の発展を通じて、「雇用の確保と神戸経済の活性化」や「先端医療技術の提供による市民福祉の向上」、「アジア諸国の医療水準の向上による国際貢献」が図られるよう取り組みを進めてきた。

昨年2023年には1998年の神戸医療産業都市の構想開始から25年が経過するとともに、来年2025年には阪神・淡路大震災から30年という大きな節目を迎える。この間、世界初のiPS細胞移植手術の実施や地元企業による手術支援ロボットの開発をはじめとした革新的成果が数多く生み出されるとともに、進出企業・団体数は360を超え、12,700人の雇用者数を擁する国内最大級のバイオメディカルクラスターへと大きな成長を遂げ、着実にその地歩を築いてきた。

### 2. 神戸医療産業都市における革新的な成果

神戸医療産業都市においては、産学官医の連携のもと研究・開発が積極的に推進され、数々の革新的成果が得られている。具体的には、2014年9月に高橋 政代氏を中心として進められてきた眼科領域の研究において、世界初のiPS細胞を用いた網膜色素上皮の移植手術をはじめ、数々の世界初となる網膜再生の臨床研究が進められている。また、地元企業の川崎重工業（株）とシスメックス（株）の合弁会社である（株）メディカロイドによって、2020年に手術支援ロボット「hinotori™サージカルロボットシステム」が開発され、現在、手術における利用症例数を着実に伸ばしているところである。さらに、アエラスバイオ（株）によって、不用歯の歯髄に含まれる歯髄幹細胞を培養し、神経が傷んだ歯に移植する再生医療が世界で初めて実用化している。このほか、神戸市立医療センター中央市民病院や神戸大学医学部附属病院をはじめ、神戸医療産業都市の関係機関等の連携・協働により、数々の医療技術やサービスが生み出されている。

### 3. イノベーション創出へ向けた取り組み

神戸医療産業都市の中核的支援機関として位置づけられ、神戸から世界へを合言葉にイノベーション創出へ向けて日々活動しているのが「(公財)神戸医療産業都市推進機構」である。当機構

は、産官学医の連携・融合を促進する総合調整機能を担うとともに、先端医療の実現に資する研究開発及び臨床応用の支援、次世代の医療システムの構築を通じて、革新的医療技術の創出と医療関連産業の集積形成に寄与することを目的としている。

本日の講演では、ネットワーク形成などを活かしたイノベーション創出のための仕組みづくり、革新的な技術が次々に生まれるエコシステムの形成、一貫した事業化支援や地元企業等のグローバル展開支援、革新的製品の創出や国内外で活躍するスタートアップの育成など、神戸医療産業都市でのイノベーション創出へ向けた取り組みについて紹介する。